

広報ふえふき Fuefuki

令和元年度
決算特集号

令和元年度決算が市議会第3回定例会で認定されました。
一般会計の決算を中心に、笛吹市の決算の概要を紹介します。

コロナ終息を願う全国一斉花火

Contents

02 決算の概要

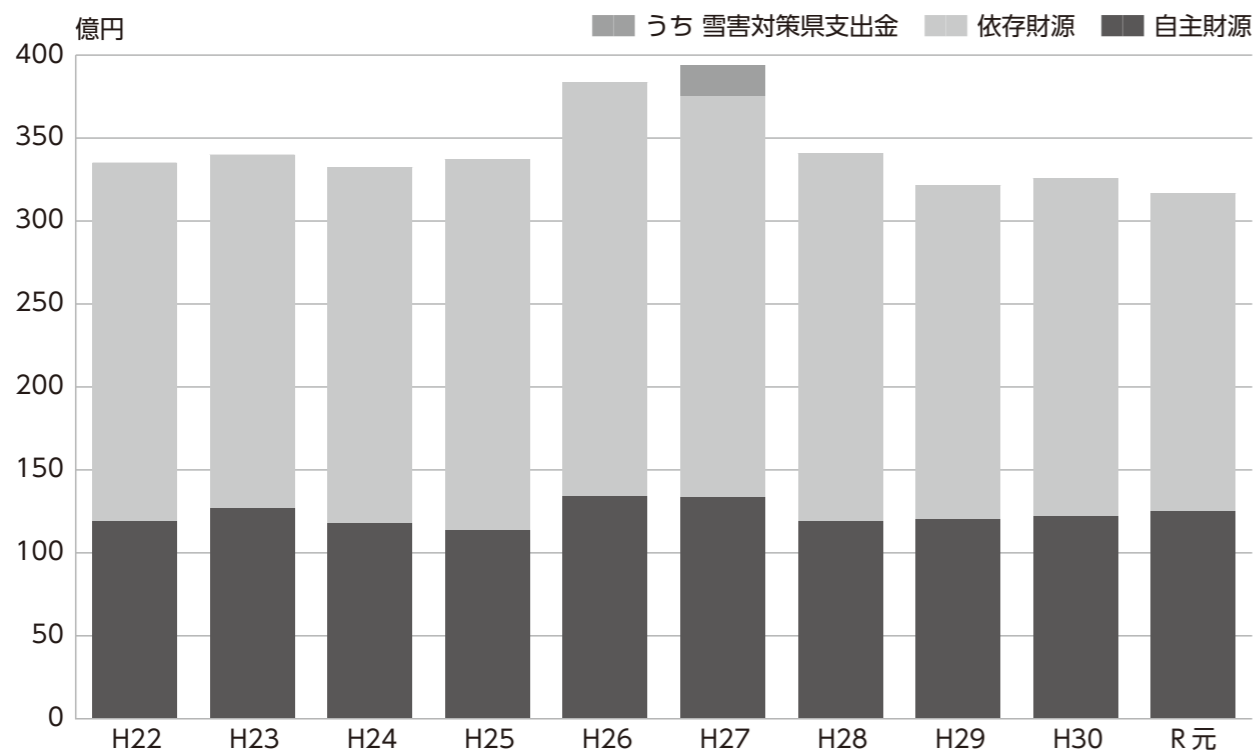
06 市の基金と市債(借入金)

07 財政健全化判断比率等

08 令和元年度の主な事業

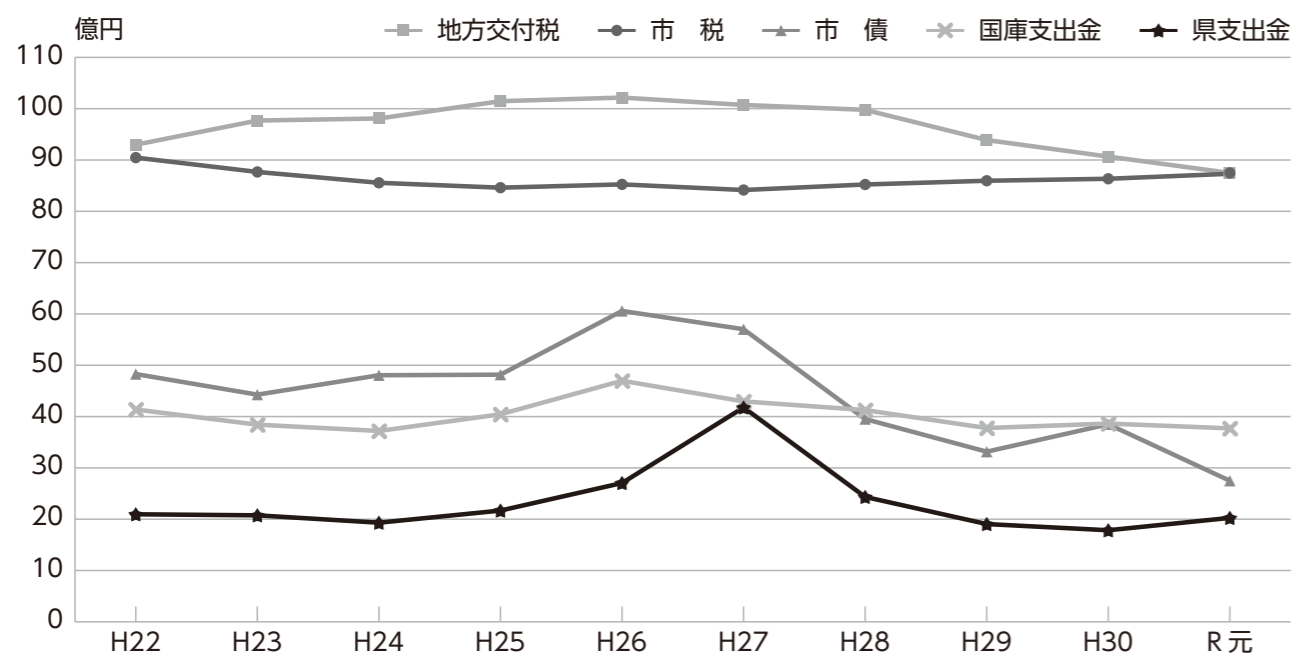
一般会計 自主財源・依存財源の推移

自主財源は、市税やふるさと納税寄附金等の増加に伴い、昨年度から3億600万円増額しました。依存財源は、平成27年度以降減少しており、令和元年度は市債の減少に伴い昨年度から12億2,500万円の減額となりました。



一般会計 主な歳入科目決算額の推移

自主財源の根幹である市税については、市民税が増えたこと及び収納率の向上により増加しました。また、地方交付税は、平成27年度以降、普通交付税が段階的に縮減されたことに伴い、減少しています。市債についても、市営住宅四日市場団地建替事業や石和学校給食センター建設事業の完了に伴い減少しました。

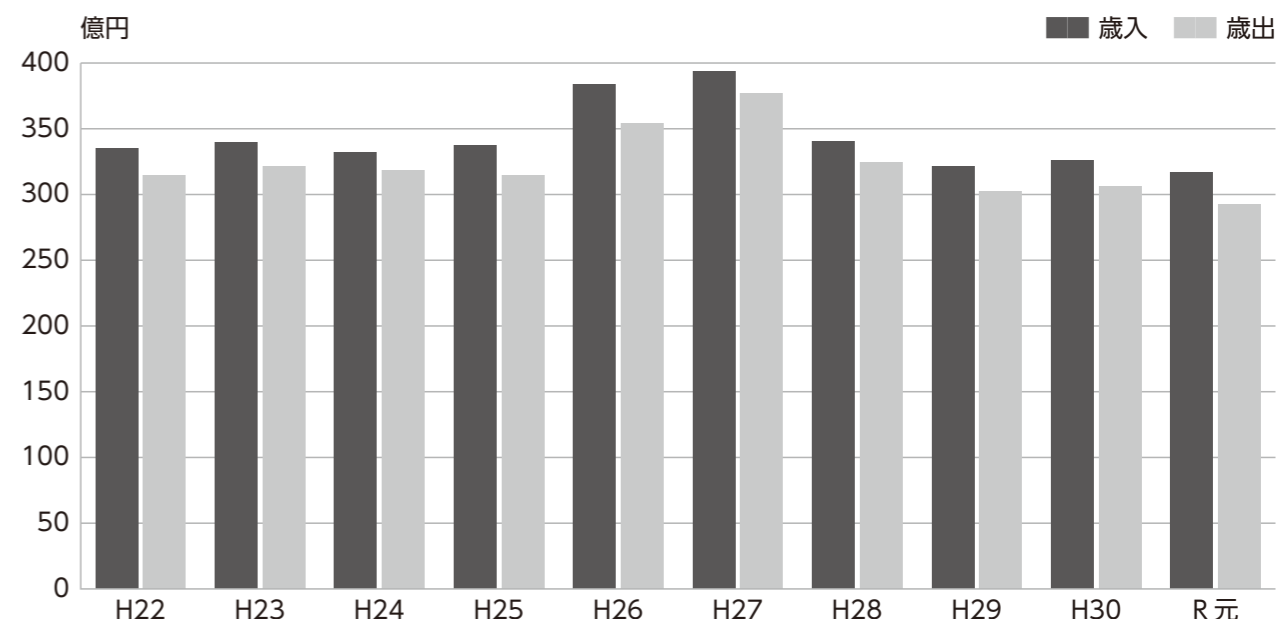


令和元年度 決算概要

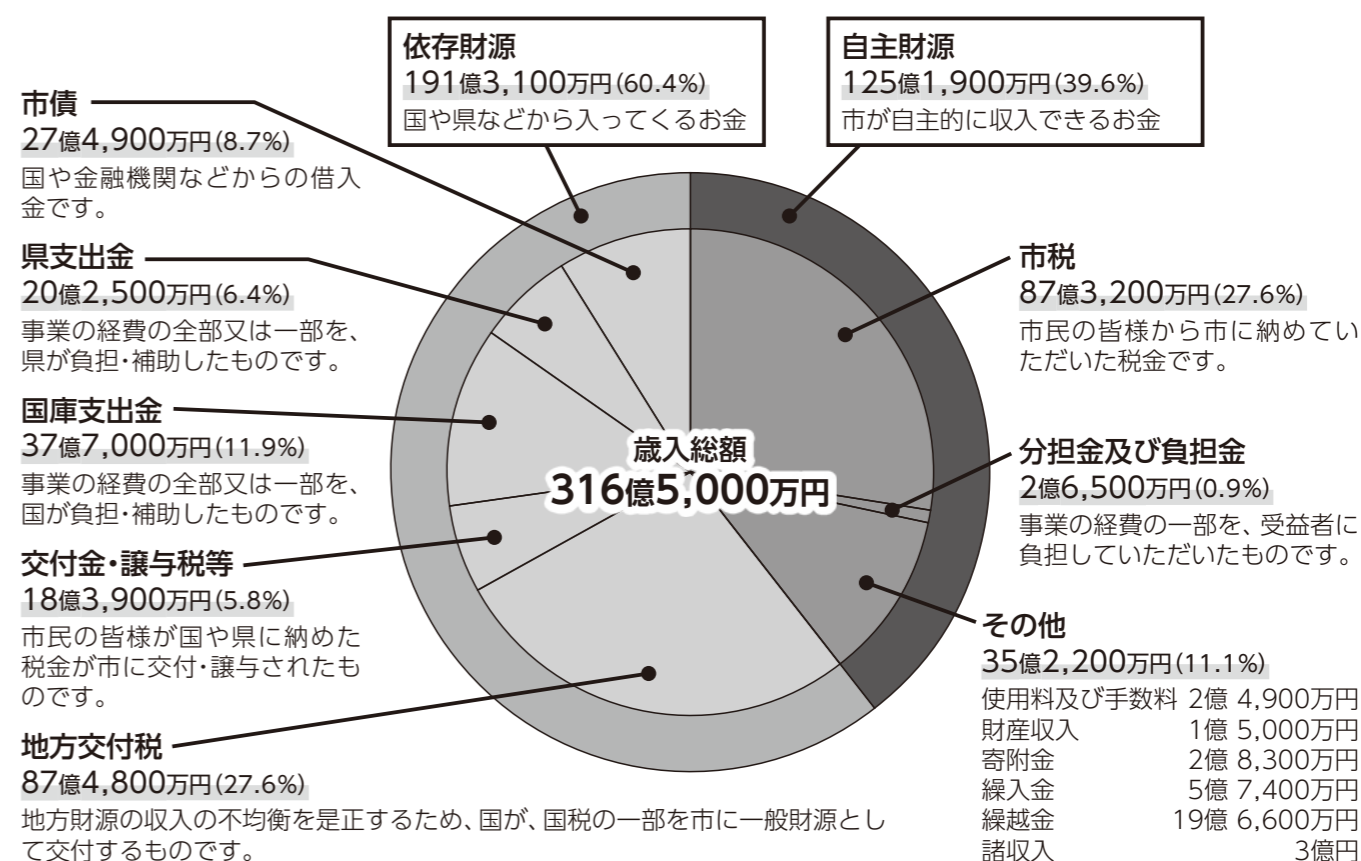
令和元年度決算が、市議会第3回定例会で審議され、認定されました。ここでは、市民の皆様から納めていただいた税金がどのように使われ、また、市の財政が今どのような状況にあるのかをお知らせします。

一般会計 歳入・歳出の決算規模

令和元年度一般会計決算は、歳入総額が316億5,000万円、歳出総額が292億2,900万円でした。昨年度と比較すると、歳入は9億2,000万円減、歳出は13億7,500万円減となりました。

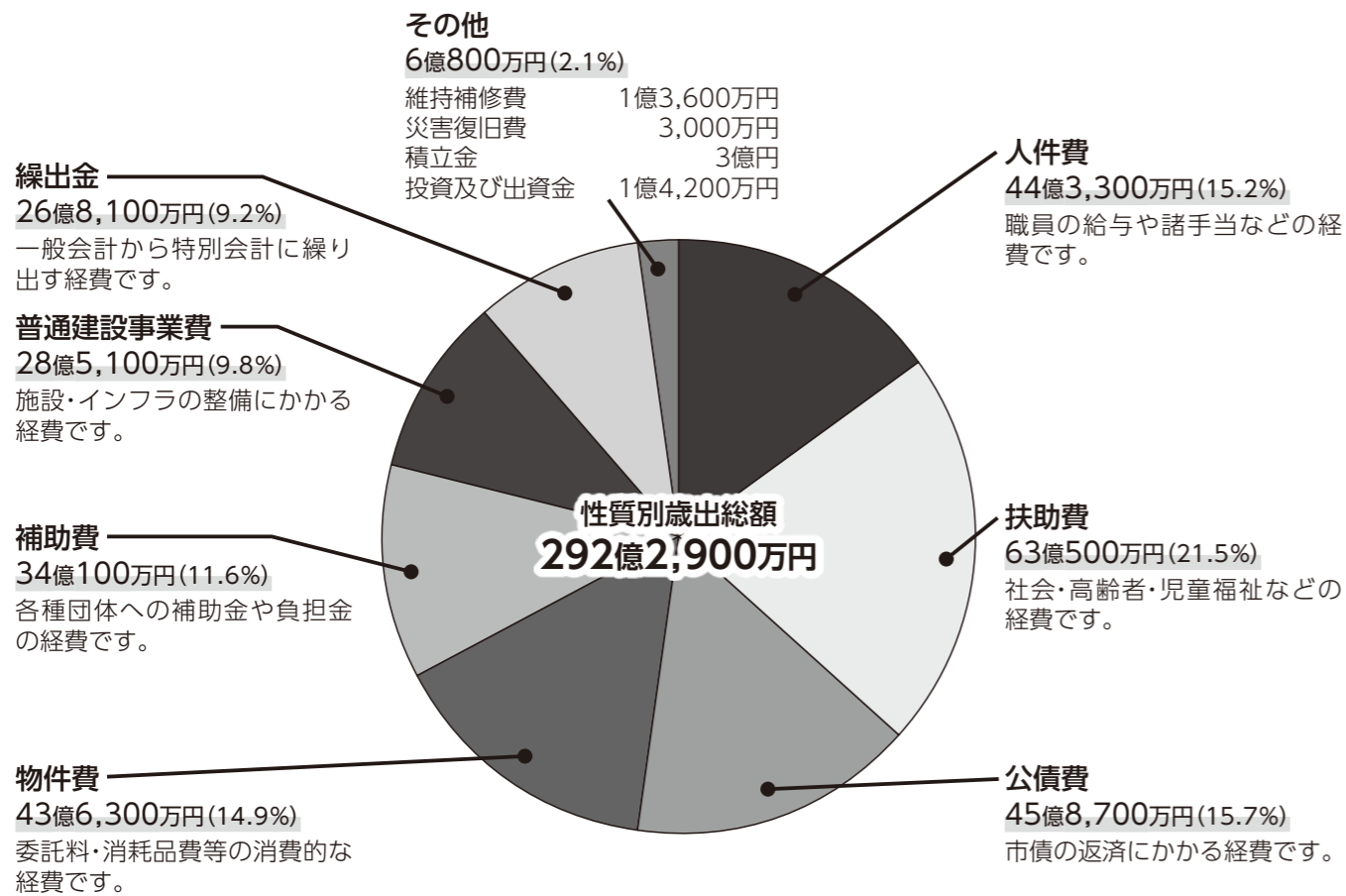


一般会計 歳入の内容



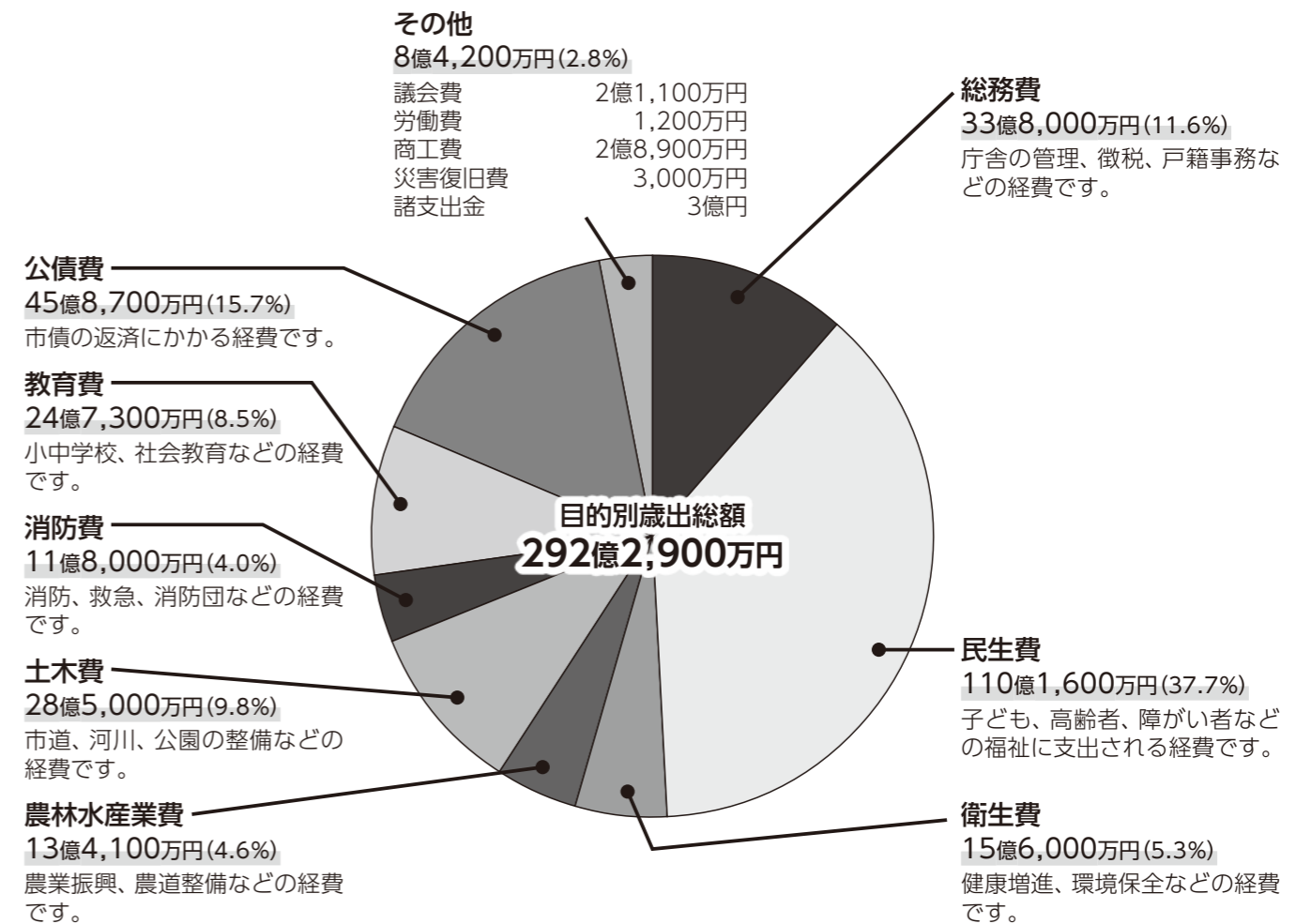
一般会計 歳出の内容(性質別)

歳出を性質別にみると、扶助費が最も大きな割合となっており、施設型給付費等事業等の増額により、4億800万円の増額となりました。扶助費には、制度により支出が義務付けられている社会保障の経費が多く含まれています。また、次いで割合が高くなった公債費は、合併特例債等の借換に伴い、昨年度より2億8,700万円増加しました。



一般会計 歳出の内容(目的別)

歳出を目的別にみると、最も大きな割合となったのは、民生費で、施設型給付費等事業(職員の処遇改善等のため、民間保育所等に給付を行うもの)等の増額に伴い、昨年度より4億2,600万円の増加となりました。また、次に割合が高かった公債費は45億8,700万円となりました。合併特例債等の借換に伴い、昨年度より2億8,700万円増加しています。



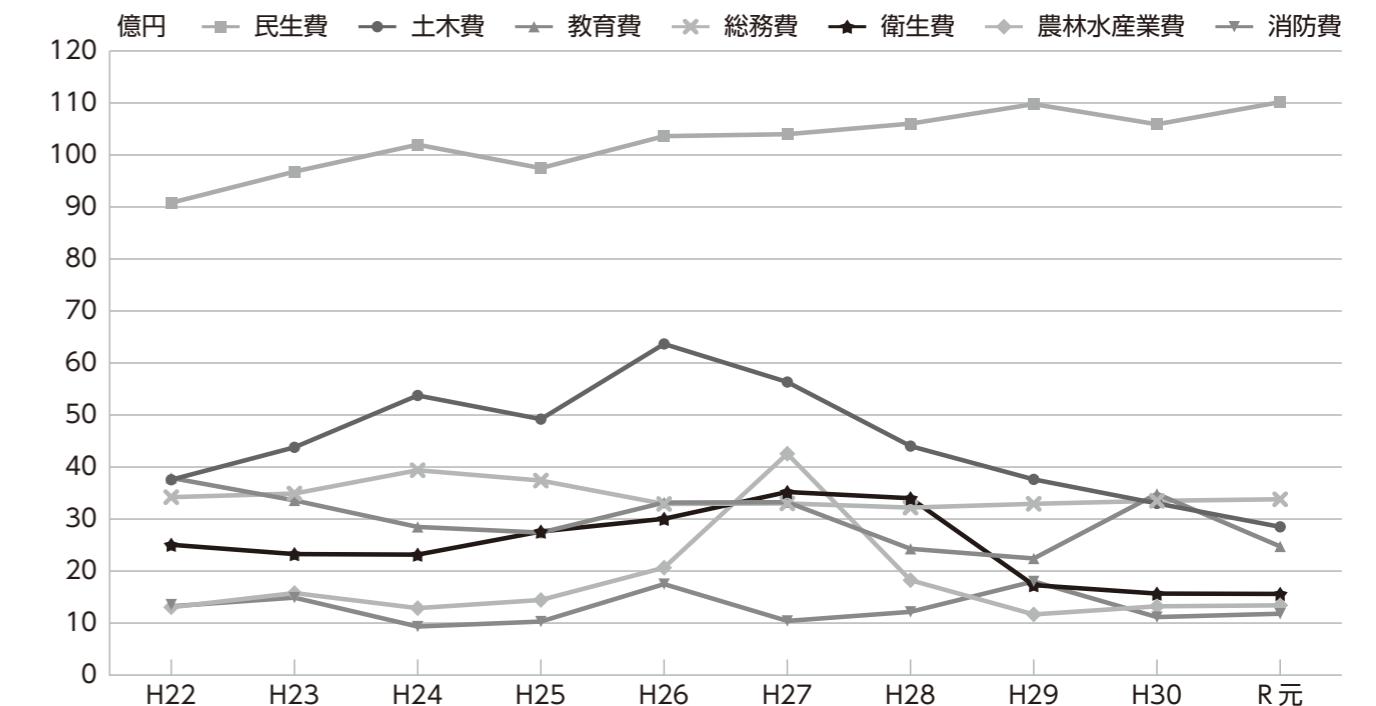
特別会計・企業会計の決算状況

特別会計名	収入済額	支出済額
国民健康保険特別会計	92億4,555万円	88億8,900万円
介護保険特別会計	71億3,409万円	65億5,857万円
介護サービス特別会計	1,150万円	843万円
後期高齢者医療特別会計	15億7,808万円	15億6,516万円
農業集落排水特別会計	6,565万円	4,630万円
簡易水道特別会計	2,695万円	640万円
笛吹市境川観光交流センター特別会計	1億1,308万円	1億216万円
森林経営管理特別会計	619万円	406万円
恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計)	5,863万円	465万円
合計	182億3,972万円	171億8,473万円

企業会計名	区分	決算額
水道事業会計	収益的 ※(1)	収入 18億2,130万円
		支出 16億6,039万円
	資本的 ※(2)	収入 3億8,033万円
		支出 7億9,566万円
市営春日居地区温泉給湯事業会計	収益的	収入 6,415万円
		支出 6,275万円
	資本的	収入 0万円
		支出 431万円
公共下水道事業会計	収益的	収入 20億5,009万円
		支出 18億4,582万円
	資本的	収入 8億5,523万円
		支出 15億1,188万円

収益的及び資本的収入が支出に不足する額は決算剰余金等の補てん財源で措置しました。

※(1)…各事業を運営していくための施設の維持管理や人件費等の会計
※(2)…資本を形成するための工事や大型備品等の更新のための会計



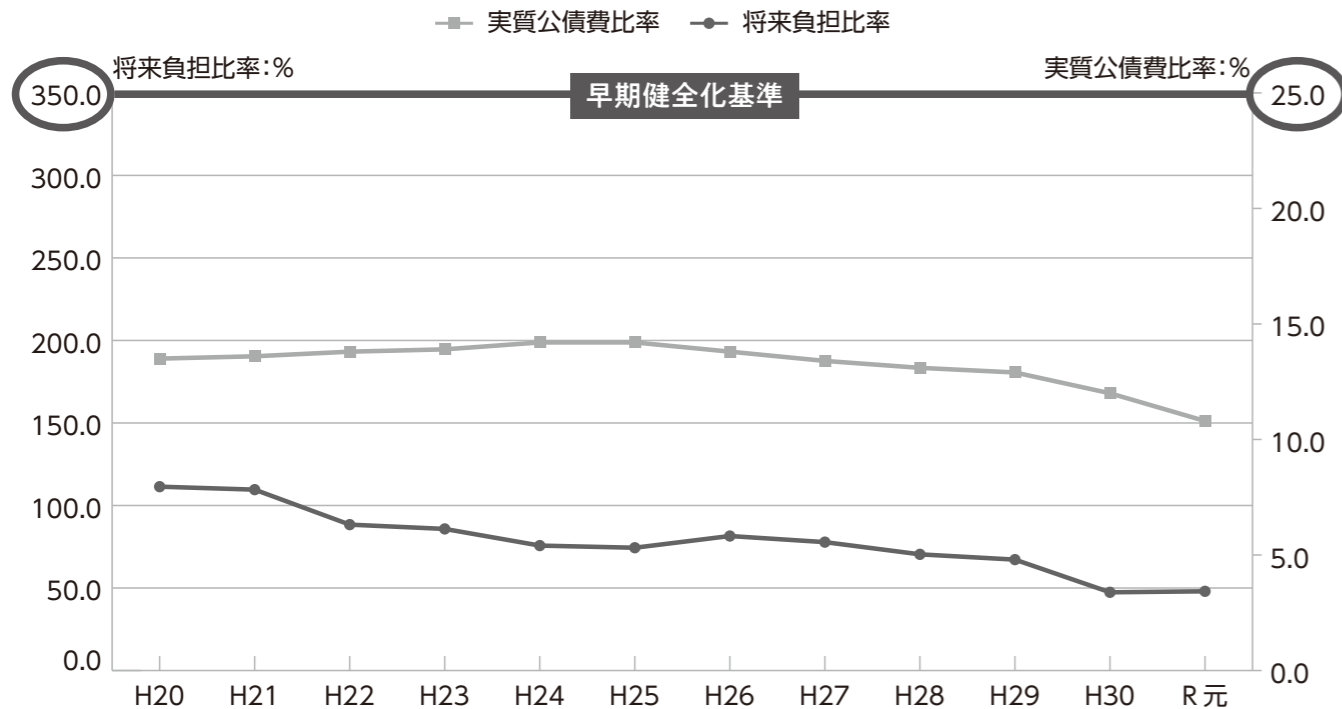
財政の健全度を判断する指標を公表します。

財政健全化判断比率とは、財政健全化法により算定・公表が義務付けられている、市町村の財政が健全かどうかを判断する指標です。主な指標としては、「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4つの指標があります。

指標	算定結果 ()内は前年度数値	早期健全化基準	比率の説明
①実質赤字比率	— (—)	12.55%	一般会計の赤字額の程度を市の財政規模と比較して指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。
②連結実質赤字比率	— (—)	17.55%	一般会計、特別会計及び公営企業会計の赤字額や黒字額を合算して、市全体の赤字の程度を指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。
③実質公債費比率	10.8% (12.0%)	25.0%	一般会計の借入金の返済額と公営企業会計や一部事務組合の借入金の返済金のうち、一般会計から支出されたと認められる額の合計額を市の財政規模と比較して指標化し、資金繰りの安全度を示す比率です。
④将来負担比率	48.0% (47.4%)	350.0%	将来負担すべき額から市の貯金などを差し引いた額を、市の財政規模と比較して指標化し、今後の財政を圧迫する可能性を示す比率です。

指標の推移

実質公債費比率と将来負担比率の推移をグラフで表しました。両指標とも減少傾向にあります。令和元年度は、将来負担比率はわずかに増加したものの、実質公債費比率は昨年度に引き続き減少しました。各指標とも早期健全化基準を大きく下回っているため、健全な財政状態が維持されていることが判断できます。



一般会計 基金現在高の状況

基金名	平成30年度末	令和元年度末	増減額
財政調整基金	39億4,454万円	37億2,556万円	△2億1,898万円
特定目的基金			
減債基金	17億9,141万円	17億9,210万円	69万円
公共施設整備等基金	41億3,735万円	40億4,627万円	△9,108万円
地域振興基金	49億 192万円	49億 905万円	713万円
まちづくり基金	3億7,041万円	5億 447万円	1億3,406万円
その他	21億2,649万円	21億2,635万円	△14万円
基金現在高	172億7,212万円	171億1,380万円	△1億5,832万円

基金とは、家計で言うと預貯金のことです。財政調整基金は、年度間の財源の不均衡を調整するとともに、予期しない収入の減少や支出の増加に備えるための基金です。それ以外の基金は、特定の目的のために資金を積み立て、必要に応じて取り崩しを行う基金です。令和元年度は、2億9,964万円を積み立て、4億5,796万円の取り崩しを行いました。

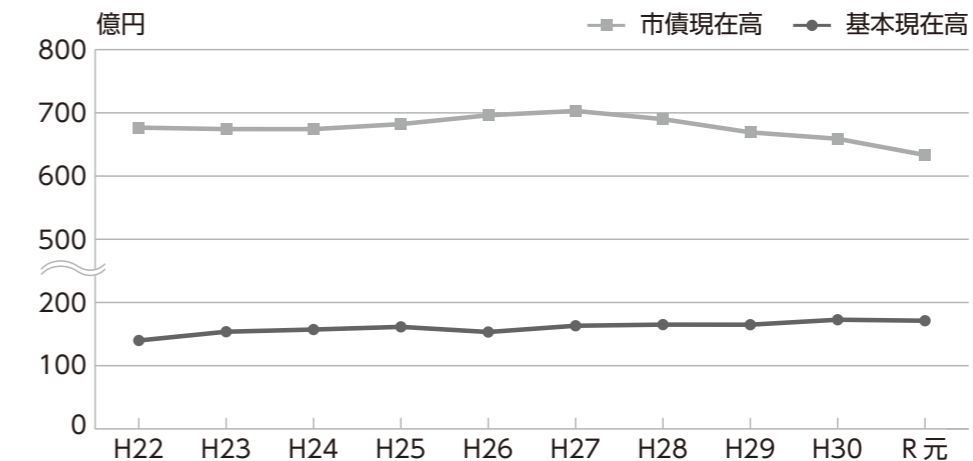
一般会計 市債(借入金)現在高の状況

会計名	平成30年度末	令和元年度末	増減額
一般会計	427億7,319万円	411億6,847万円	△16億 472万円
うち合併特例債	208億9,843万円	200億9,516万円	△8億 327万円
うち臨時財政対策債	158億3,157万円	153億4,541万円	△4億8,616万円
公営企業会計	231億2,310万円	221億6,376万円	△9億5,934万円
上水道・簡易水道	82億7,198万円	80億2,667万円	△2億4,531万円
下水道	146億1,231万円	139億2,266万円	△6億8,965万円
農業集落排水	2億3,881万円	2億1,443万円	△2,438万円
市債現在高合計	658億9,629万円	633億3,223万円	△25億6,406万円
臨時財政対策債を除く市債現在高合計	500億6,472万円	479億8,682万円	△20億7,790万円

市債には、長く利用する施設の建設に当たって、資金の借入をすることにより、後年度の償還を通じて将来その施設を利用する人にも、建設の費用を公平に負担していただくという、世代間の負担の公平性を保つ役割があります。令和元年度の現在高は633億3,223万円で、昨年に引き続き減少しました。

基金と市債(借入金)現在高の推移

基金の現在高は、4億5,796万円の取り崩しを行ったものの、ふるさと納税寄附金をまちづくり基金に積み立てたことにより、平成30年度に引き続き170億円を超えています。市債の現在高は、全ての会計で借入れが減少傾向にあるため、減少しています。



春日居学童保育クラブ事業

利用希望者が多い春日居学童保育クラブを拡大するため、新たな施設を建設し、令和2年7月から利用を開始しています。留守家庭の児童に、放課後の適切な遊び及び生活の場を与え、その健全育成を図ります。



本館立体駐車場整備事業

来庁者駐車場不足の解消を図るため、新たに立体駐車場に建て替えを行いました。令和2年6月末から供用開始しています。



農産物等消費拡大宣伝事業

笛吹市が日本一の生産量と品質を誇る「桃」「ぶどう」を中心とした農産物の更なる消費拡大につなげるため、国内外で市産農産物の販売促進イベントを開催します。令和元年度はシンガポール、東京大田市場、大阪本場市場等でトップセールスを行いました。



高機能指令センター部分更新事業

消防本部内に設置されている高機能指令センターでは、24時間365日、緊急通報を受け付け、現場の特定や出場隊の編成、出動指令、隊への情報提供やサポートを一元的に行っています。令和元年度は、機器の更新を行いました。市民の生命財産を守るため、迅速かつ確実に対応できる体制を整備しています。



消防車両等整備事業

耐用年数を経過した災害対応特殊救急自動車を更新しました。多種多様な災害に対応するため、最新の高性能車両を導入することにより、円滑で的確な現場活動を実現します。また、運転席と車両後部の間に可動式の仕切りを設けるなど、新型コロナウイルス感染症対策にも配慮しています。



釈迦堂遺跡博物館リニューアル事業

笛吹市と甲州市で運営する、釈迦堂遺跡博物館が開館30周年を迎えるにあたり、施設の改修・機能強化を進めてきました。令和2年6月21日にリニューアルオープンし、よりよい環境で充実した展示を行っています。

